

バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第 140 号 [2016 年 11 月]

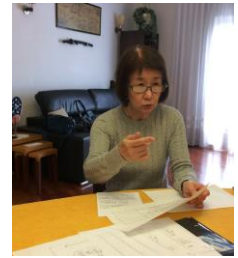
さあ、湖の向こう岸に渡ろう

ルカによる福音書 8 章 22 節

『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

主の聖名を賛美します。 発足 25 周年を迎えた『バルセロナ日本語で聖書を読む会』の月報第 140 号をお送りします。今月は集会発足 25 周年を記念して、発起人のひとり、阿部園子姉が日本からご来訪くださり、20 年ぶりに集会を導いて下さるとい嬉しいひとときでした。阿部姉は、『キャンドル会』という聖書研究法をご紹介くださいました。

『キャンドル会』というのは「世の光であるイエス様(キャンドル)を真ん中に聖書を読もう」という目的から聖公会の司祭により 1973 年頃編み出された方式で、① 聖書のみ言葉を、1 人 1 人に語りかけてくださる生きたメッセージとして受け止め、② 各人に語りかけてくださったメッセージを大切なものとして尊重し分かち合い、③ 聖書になじみのない方や初めて参加された方に示されたメッセージを特に大切に、という方針をもとに創作されたものです。



マーク	ルカによる福音書 17 章 5 節から 10 節								
	使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、								
	主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。								
	あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰ってきたとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。								
	むしろ、『夕食を用意してくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなからうか。								
	命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。								
	あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをしただけです』と言いなさい。』								

この方式の学びの前には特にテキストの勉強をしないで集まり、1 節ずつ表の形に準備された聖書の箇所を輪読します。

その後 5 分ほど鎮まり、各人が各節に感じたことをマークで左端の欄に記入します。

感動し、光を感じた箇所には 蠟燭の絵を、
胸を衝かれた箇所には 十字架マークを
納得した箇所には ↓ を
驚いた箇所には ! を
疑問に感じ、問題にしたい箇所には ? を。

全ての欄にマークを入れる必要は無いのですが、おおむねできたら右の欄に参加者全員の名前とマークを列ごとに記入していき、一人一人がなぜそのマークを記入するに至ったか、特に ? マークを付けたメンバーのコメントから皆で語り合います。

今回は阿部姉がご準備くださったルカ福音書 17 章 5 節から 10 節までのテキストを読み、早速この方式でテキスト吟味しました。その時出されたコメントのいくつかをご紹介します。

- § 使徒とも呼ばれる人が「信仰を増してください」と言う所に彼らの謙虚さがうかがえる。 / 他力本願的な願ひではないか。
- § からし種一粒ほどの信仰があれば…の言葉は理解がたい / 常識を超えて 1 歩を踏み出す重要性を言っているのでは。
- § 畑を耕して帰ってきた僕に「すぐ夕食を用意しろ」とは冷たい / 食事を提供する相手には貧しい民が含まれていたのでは。
- § 命じられたことを果たしたところで主人は僕に感謝すべきだろうかとは受け入れがたい / 主従関係はそんなものでは。
- § 『わたしどもはしなければならないことをしただけです』とは、納得できない / 信仰が与えられていればそれで十分で、それ以上信仰を増す必要はないという意味ではないか / 神様が人として送ってくださった喜びをここで表しているのではないか。

この学びではあらかじめ注解書などを読んで勉強するとその注解書の著者の考えて引っ張られるので極力避け、学びをまとめる必要もない、ただ受けたメッセージを互いに尊重するという、信徒間のみでの学びにはぴったりのシステムなので、ぜひ今後も時々活用させていただきたいと思えます。阿部さん、本当に有難うございました！